

校名：群馬大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒371-0032 群馬県前橋市若宮町2丁目5番3号

電話番号：027-231-3170

記載日：平成28年 5月20日

記載者：三好玲子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

前橋市の中心部に位置し、広い園庭に沢山の木々が茂る自然豊かな幼稚園である。創立80年以上の歴史があり、3学年5学級の約140名の幼児が在籍している。

教育目標は、次の通りである。

健康で生き生きした子どもに育てる

- 1 身近な環境に興味や関心をもち、自ら関わっていく子どもに育てる
- 2 豊かに感じとり、考えたり表現したりする子どもに育てる
- 3 友達に関心や親しみの気持ちを持ち、友達と楽しく遊ぶ子どもに育てる

幼児期の特性や、幼児・家庭の実態を踏まえ教育の充実を図り、幼児一人一人に「生きる力の基礎を育成する」ことに努め、園がもつ様々な環境を生かすとともに関係諸機関と連携し、健康教育や食育、異校種との交流などを積極的に推進することを運営の方針にしている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡調査はしていない。

ほとんどの修了生が群馬大学教育学部附属小学校・中学校へ進む。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査はしていない。

幼児教育を推進する中で培った、子どもの心情や意欲・態度の育ちを支える教育観を生かし、公立学校や教育委員会等で活躍している方が多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：



○友達と思いをひとつにする

「大きなかぶ」のイメージで木の根を引っ張る。友達と関わりあう楽しさを感じ、協同して遊ぶ力が育つ。



○友達と考えあう

水遊びにより園庭にできた川に橋を架ける。友達と試したり工夫したりしながら思考力の芽生えが育つ。



○友達と一緒にいる楽しさを感じる

ベンチを動かしてできた線を線路に見立てて、友達と電車ごっこ。友達を感じる力が育つ。



○異年齢の友達と遊ぶ

年長児が相撲をしていたところに興味をもった年中児が加わった。異年齢の友達に対する憧れや優しさが育つ。

○ 劇遊びで「やまのおんがくか」をすることになった幼児たちのために、教育学部の音楽を専攻する学生と教員が、思い思いに遊ぶ日常を過ごす幼児たちの中に入って、フルートやトロンボーン、バイオリンを奏でてくれた。それを目にした幼児たちは、楽器を奏でる姿を真似したり、指揮者になったり、学生や大学教員に質問したりして楽器を感じていった。



○ PTA行事の「クリスマス・ミニコンサート」が遊戯室で行われ、群馬大学教育学部音楽科シンフォニカ35名によるクリスマスソングの合唱と演奏・劇を楽しんだ。音楽科シンフォニカの学生は、「サンタが町にやってくる」「ひいらぎかざろう」「あわてんぼうのサンタクロース」「そりすべり」「ウィンターワンダーランド」等クリスマスらしい曲や、「手裏剣戦隊ニンニンジャー」「Go!プリンセスプリキュア主題歌」等子どもたちが大好きな曲を、たくさん用意してくれてきた。子どもたちは、自分の知っている曲になると、思わず一緒に歌っていた。たっぷりとしたクリスマスの気分になり、楽しい時間を過ごすことができた。様々な楽器を見たり、音色を楽しんだりするよい機会となった。



○ 本園には、調理室があり、年長学年のみ給食、年中・年少学年にはおやつを実施している。全園児の家庭には、献立表と給食だよりを配付し、保護者に対する食への啓発に努めている。また、年長学年には給食実施日に毎日、配膳表と献立についての解説を栄養士が作成し、それをもとに担任が今日の献立の材料、作り方、栄養等に関する話をし、食に対する関心を高めている。園の生活の中で、給食やおやつを運ぶ栄養士や調理師と園児が自然に触れ合い、園児から給食やおよつの食材について質問を受ける姿も見受けられ、園児の食に対する関心を高める一助になっている。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○年2回の公開研究会では、県内外の参観者に公開保育と研究会、研究紀要や教育課程の提示を行い、幼児教育の質の向上に寄与している。

○県と連携し、教員研修の拠点園として各種研修会場となり、公開保育や保育研究会を行い、幼児教育に関わる教員の資質向上に寄与している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○大学の教員養成プログラムに基づき、学部3・4年生の教育実習や教職大学院生の課題発見実習での、指導を行っている。

○園内研究の充実に努め、その成果を発信し、幼児教育の発展に寄与している。